

SHO-BOND

既設構造物の空洞充填注入工法

水辺環境に優しい無公害性グラウト!

# Wフィルグラウト工法

Water Fill Grout Method

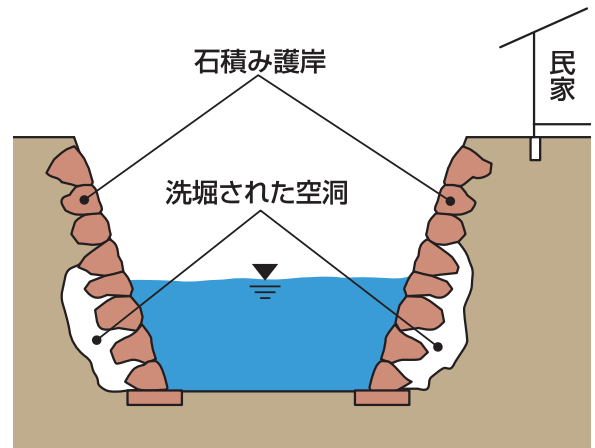


■補修工学®——構造物の総合メンテナンス企業

ショーボンド建設株式会社

# Wフィルグラウト工法

可塑状モルタル・水中空洞充填注入工法



## ■ Wフィルグラウト工法とは

近年、補修における空洞充填注入の重要性が再確認されています。空洞には水を伴うケースが多く、耐水性のグラウト材が望まれています。

そのような中で開発されたのが、新しいタイプの2液性水中空洞充填注入工法、「Wフィルグラウト工法」です。

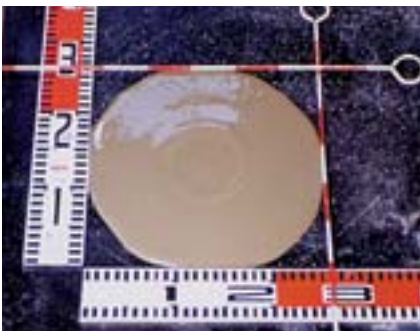
## ■ Wフィルグラウト工法の特長

流動性の良いA液、B液を混合するとほぼ瞬時に可塑状モルタルを生成します。

- ①水に希釈されません。
- ②限定注入が可能です。
- ③充填性良い施工ができます。
- ④使用機械が小型なため、スペースを取りません。
- ⑤環境に優しい材料です。(土壌環境基準に適合しています。)

\*「可塑状モルタル」=自己流動性はないが、若干の加圧で流動化するモルタル(マヨネーズ状)

(以上の特長から、「Wフィルグラウト工法」は、河川および港湾の護岸背面をはじめ、既設構造物周辺のあらゆる空洞充填注入に適しており、特に水中では、その特長を十分に発揮します。)



▲フロー試験  
A液のみの場合。



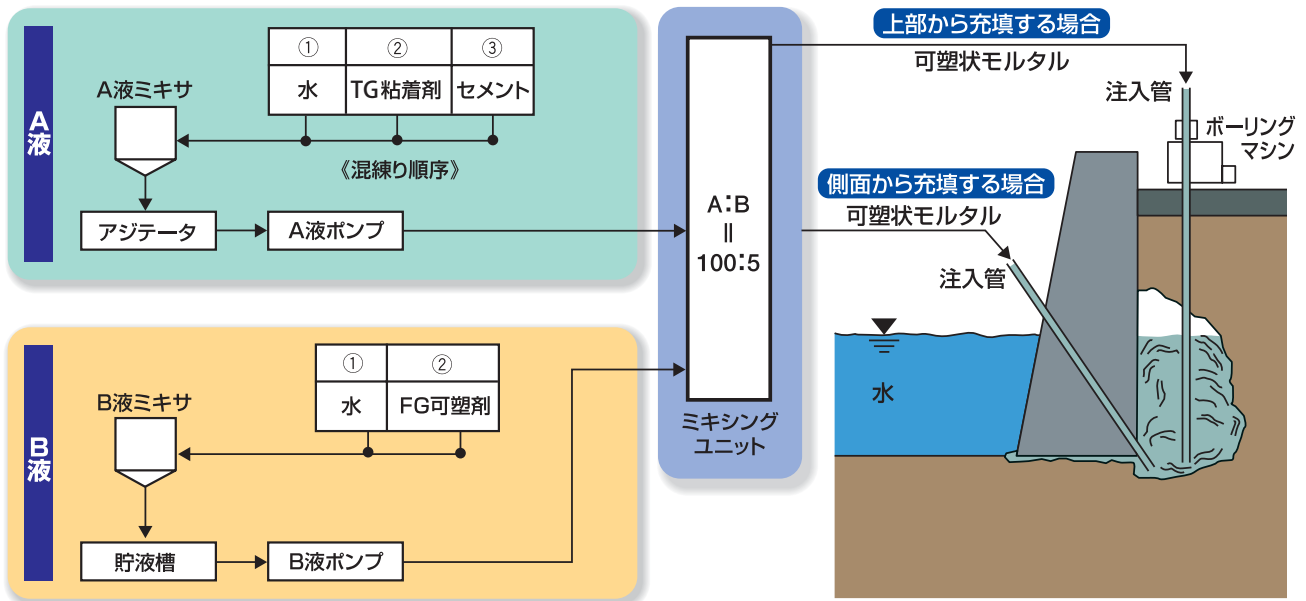
▲A液とB液を混合した場合。



▲A液とB液を混合し、可塑状モルタルとなったWフィルグラウト

## ■Wフィルグラウト工法の施工フロー

Wフィルグラウト工法は、A液、B液を別々に混練り・圧送し、ミキシングユニットで二液を混合してできる可塑状モルタルを注入ホース、注入管を通じて所定の空洞に充填します。



## ■Wフィルグラウト工法の施工例



▲橋脚フーチング下部



▲石積み堤防



▲岸壁



▲吹付けのり砕

# Wフィルグラウト工法

可塑状モルタル・水中空洞充填注入工法

## ■配合例と物性(配合量kg表示) ◎配合/1.05m<sup>3</sup>当たり(A+B液=1.0m<sup>3</sup>+0.05m<sup>3</sup>=1.05m<sup>3</sup>)

A液 1.0m <sup>3</sup>			B液 0.05m <sup>3</sup>		物 性	
セメント	TG粘着剤	水	FG可塑剤	水	A液比重	A+B液・圧縮強度 28日(N/mm <sup>2</sup> )
400	25	864	29.4	35.3	1.29	1.0
450	25	848	29.4	35.3	1.32	1.5
500	25	832	29.4	35.3	1.36	2.0

## ■使用材料の働きと性状

セメント：普通ポルトランドセメント

TG粘着剤：水とセメントに粘着性を持たせるとともに、A液の分散効果およびグラウトの強度発現を促進する。(薄黄色粉体、比重2.6、荷姿25kg袋入)

FG可塑剤：グラウトを瞬時に可塑状にする。

(白色粉体、比重1.6、荷姿25kg袋入/可溶性のため混練時には比重2.0で計算します。)

■A液に対するB液の量は水温に応じて5～8%の範囲で決定する必要があります。

## ショーボンド建設株式会社

〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町7-8 TEL.03(6861)8101(代表)

<http://www.sho-bond.co.jp>

★品質改良のため、製品規格の一部を変更する場合がありますので、ご了承ください。

●取扱い営業所